

氏 名：森田 充 議員

項 目：実証実験業務委託(好気性発酵乾燥方式)費用の減額について

**Q 1：新ごみ処理施設を建設するうえで重要視されていることは**

A 1：ごみ処理施設は、住民の皆さまの日常生活を支える基幹的な社会インフラであり、その機能が停止すれば、地域の安全・安心に重大な影響を及ぼすものであるという認識は、現在においても変わっておりません。

当圏域の施設は老朽化が進行しており、これ以上、供用開始時期が遅れることは、安定的かつ継続的なごみ処理体制の確保という観点からも、看過できない状況にあります。

そのため、管理者として最も重視すべきは、一日も早く、確実に稼働し、長期にわたり安定した処理を行うことのできる新たなごみ処理施設を整備することであると考えております。

こうした基本的な考え方に立ち、現時点で解決が困難な課題が残る方式については慎重に整理を行い、地域にとって最も現実的かつ責任ある選択を行うことが、管理者として課せられた責務であると考えております。

**Q 2：議案第 1 号 令和 7 年度(2025 年度)彦根愛知犬上広域行政組合一般会計補正予算(第 3 号)が可決された場合のスケジュールは**

A 2：このたびの臨時議会で執行部からの提案をお認めいただきました際には、現在予定されている令和 17 年度の供用開始から遅れることがないように、これまで以上にスピード感をもって事業に取り組んでまいりたいと考えております。

そのための基本的な考え方といたしましては、まず早期に処理方式についての一定の方向性をお示しし、最終的な決定に向けて、財政的に負担可能な範囲での費用縮減策を検討してまいりたいと考えております。

その後は、必要となる計画変更や各種手続きを速やかに進め、設計・建設・運営に係る事業者選定を行ったうえで、順次、詳細設計および建設工事へと移行することを想定しております。

**Q 3：なぜこのタイミングで好気性発酵乾燥方式の選択肢を外す必要があるのか**

A 3：好気性発酵乾燥方式は一定の可能性を有する方式であり、技術の進展や事業者の参入状況の変化等により、将来的に有効な選択肢となる可能性はございます。

しかしながら、これまでご説明してまいりましたとおり、現時点では、フラフの塩素濃度や販売先の確保、さらには建設・運営事業者の競争性の確保やリスク分散など、解決すべき課題が複数存在していることも明らかになりました。

このため、早期に新ごみ処理施設の整備を求められている現状においては、好気性発酵乾燥方式を選択肢から除き、現実的に課題の少ない方式に絞って検討を進めることが今置かれている状況の中では、適切であると考えております。

#### **Q 4 : 本事業に対する市民・町民の理解・納得性は**

A 4 : ご指摘のとおり、市民・町民の皆さまのご理解・ご納得を深めることは、新ごみ処理施設の整備を進めるうえで非常に重要であるとの認識を共有しております。

そのため、今回の好気性発酵乾燥方式の検討を中止する判断に至った経緯についてはもちろん、今後の施設整備の各段階におきましても、全体像や検討状況をできる限り丁寧に住民の皆さまにご説明し、ご理解をいただくことで、事業のスピードアップを図ってまいりたいと考えております。お認めいただきましたら速やかに情報をお伝えできる方策に取り組ませていただきたいと認識しております。

#### **Q 5 : まずは新ごみ処理施設の全体像が見える形にして市民・町民に開示しては**

A 5 : ご指摘のとおり、市民・町民の皆さまに、施設整備の方向性やコストなど全体像を分かりやすく示すことは、大変重要であると考えております。

今回、好気性発酵乾燥方式についての検討を中止し、選択肢から除くべきであると判断した理由は、これまでご説明してまいりましたとおり、コストの比較をする以前に、今回の調査結果によって判明した事業性の課題を踏まえたものでございます。

すなわち、好気性発酵乾燥方式は、当圏域においては、安定的かつ継続的にごみを処理できる事業性の確実性が低く、そのリスクを看過できないためでございます。

したがって、今後の方向性としましては、早期に検討を進めるため、現実的に課題の少ない処理方式を前提に、財政的に負担可能な範囲で施設整備を行うことを基本方針としております。

そのうえで、今後も各段階における検討内容や全体像、費用見通しなどについては、できる限り住民の皆さまに丁寧にご説明し、ご理解をいただきながら、事業を進めてまいりたいと考えております。